

アインシュタイン博士と姨捨伝説

今から丁度百年前の十一月十七日に来日したアインシュタイン博士は、関心のあった仏教について「仏教、仏の教え、姿とは？」と浄土真宗本願寺派の僧侶・近角常観に質問した。

「**姨捨伝説にある、母親の枝折る姿こそ仏の教え、姿**」と近角常観は答えた。博士は感激し、帰国に際して

「日本に来てこのような素晴らしい教えに出会えたことは何にも勝るもの」と語った。
 (姨捨伝説とは昔々、年寄りの大嫌いな殿様がいて、老人は山へ捨てろというおふれを出した。それに従ってある男が老母を背負い山奥へと行ったものの母を捨てることはできず連れ帰り家に隠した。その後、隣国から無理難題をけしかけられ脅された殿様は困って国中におふれを出し知恵を求めたところ、男が難題を次々と解決した。それが捨てられるはずであった老母からの知恵によるものと知った殿様は改心して年寄りを捨てることを止めさせ大切に扱うようにしたという話。話の中で、男が老母を背負って山道を登る道すがら、捨てられる身でありながらも我が子が迷わず帰れるようにと木の枝を折って道しるべとした、という逸話がある。)

私は二〇〇四年に「葉(しおり)」の語源が枝折であり道標(みちしるべ)であると学び、姨捨伝説を起因とする教えの奥深さに唐突に気付きました。そして千曲商工会議所に呼びかけ「葉の故郷推進委員会」を結成。活動の始めに地元更埴西中学校において、故郷が尊い教えのある地であることの素晴らしさ、誇りを全校生徒、教員の皆様にお話させていただきました。二〇〇六年には当時西中一年一組の生徒が担任の酒井賢一先生(現坂城中校長)の熱心な指導の下に、年寄りの知恵による「灰の縄」を実際に作るという試みを行いました。そうして作った「灰の縄」と、その教えの意味するところを文章にまとめたものと、明治時代の浮世絵「教訓画譜・姨捨山、枝折の図」とをセットにし、姨捨駅、姨捨SAの上下線の三ヶ所に設置し、今でも多くの旅人に向け展示しています。

冒頭のアインシュタイン博士の逸話はこの八月インターネットで偶然に発見しました。今まで知る由もなかった百年前の逸話に縁を感じ、姨捨伝説の真の教えを多くの人に知っていただきたく、左記のごとくイベントを開催いたします。

葉の故郷推進委員会 会長 千曲市小島2869 馬場 條 (090-1866-2210)
 事務局 千曲市鋳物師屋717・1 株式会社 幾久屋(きくや)

令和四年十一月二十三日(勤労感謝の日) 一回目 午前十時半より
 二回目 午後一時半より

- ◎ JR 姨捨駅、舎内
- ◎ 展示「姨捨伝説」を新装
- ◎ 地元の語り部による「姨捨伝説」
- ◎ デイスクッション『姨捨伝説』の教えを紐解く

各回、座席数を限らせていただいております(二十五席)。ご参加いただける方は、馬場携帯番号(090-1866-2210)までご連絡くださいますようお願いいたします。



姨捨伝説の象徴である「枝折り」を描いた、明治時代の浮世絵(版画)



姨捨サービスエリア下り線



捨サービスエリア上り線



姨捨駅